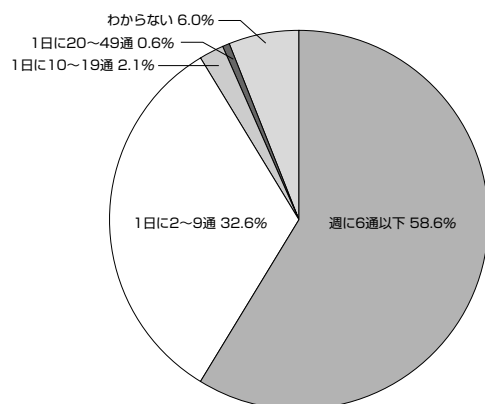


第2章 個人

メール

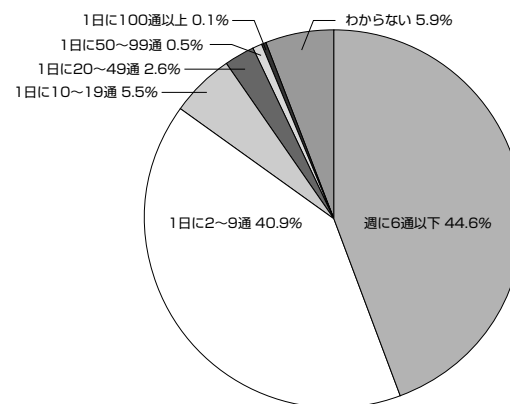
3割が無料のメール情報を利用

資料1-2-7 平均送信メール数 N=1495



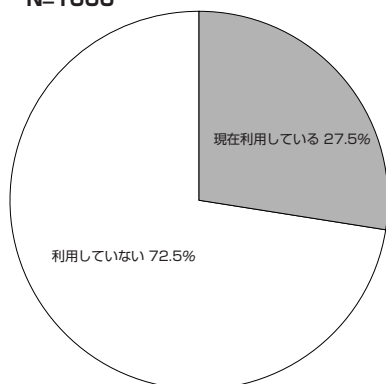
インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-8 平均受信メール数 N=1495



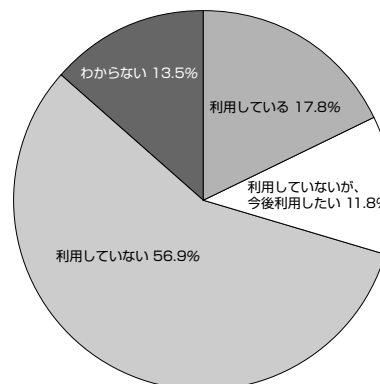
インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-9 電子メールによる無料情報配信サービスの利用有無 N=1666



インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-10 フリーメールやウェブメールの利用有無 N=1495



インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

解説

利用内容でもみたように、現段階のインターネット利用において電子メールの重要性は最も高いといえる。その電子メールの利用状況を見ると、送信メール数は「週に6通以下」が全体の約6割を占め、「1日に2~9通」と合わせて9割を超える。受信メール数はそれよりやや多く、「週に6通以下」が44.6%、「1日に2~9通」が40.9%となっている。1人当たりの所有メールアカウント数の平均は2.5となっているが、普段利用している平均メールアカウント数は1.6と、多くの利用者が主に利用するメールアカウントを管理しやすい数に絞り込んでいる。

インターネット上でサービスを提供する企業団体の増加に伴い、産業情報や趣味に関する情報など、登録会員向けに電子メールで情報を配信するサービスが一般的なものになってきた。それを反映して無料の情報配信サービスについてはすでに約3割が利用

していることがわかった（資料1-2-9）。しかし、有料配信の利用率は3.1%と非常に低い。

今回の調査では、新たにヤフーメール、ホットメールに代表される、ウェブ上からメールの送受信ができるフリーメールやウェブメールといわれるサービスの利用に関しても聞いた。これらのサービスではメール管理や添付ファイルの保存もでき、多くのポータルサイトで無料サービスとして定着してきている。現在これらのサービスの利用率は17.8%であるが、「今後利用したい」も11.8%みられ、今後の利用者の広がりが期待できる。すでにインターネット個人利用者の中で、ウェブブラウザさえあればどこからでも利用できるという手軽さや機能に対する理解が進んでいるといえる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp